

評価点と評価の目安

5段階評価	評価の目安
5	当初の計画について極めて順調に事業が進行し、目標を上回る成果が挙げられている。
4	当初の計画について順調に事業が進行し、目標に対して十分な成果が挙げられている。
3	当初の計画について概ね事業は進行しているが、一部の事業の進行に遅れがみられ、目標達成には一層の努力が求められる。
2	当初の計画のうち半数以上の目標に係る事業の進行が遅れており、一部の目標や事業について見直しが必要である。
1	当初の計画について事業の進行が極めて遅れており、ほとんどの目標について達成の見込みがないため、計画の大幅な見直しが必要である。

総合評価

総合評価	⑤ 4 3 2 1
総合評価の理由	取り組み目標ごとの評価点では5点が7つ、4点が4つであり、アウトカム目標2つも達成された。このことから総合評価は「5、当初の計画について極めて順調に事業が進行し、目標を上回る成果が挙げられている。」とした。
備考	

目標ごとの評価

取組目標①	経営マインドを持ち地域活性化に貢献する人材の育成	
活動指標	経営関連科目を含める形で毎年80科目以上の科目を開放する単位互換制度を堅持し、市川市の現代社会的課題を扱う共同開発プログラム「市川学Ⅱ」を通じて、地域活性化に貢献する人材を2028年度までにのべ150人以上育成する。それとともに、市川市に貢献している地元企業と個別に連携協定を結び、協働して地域活性化に資する事業を実施する。	
	具体的取り組み内容	2024年度実績
1	他の②～④の取組目標に関連する単位互換科目とあわせて、2028年度まで5大学で総計80科目以上を単位互換科目として相互に開放する体制を堅持することを目標とする。	2024年度は5大学全体で98科目を単位互換科目として開放した。充分達成できている。
2	共同開発プログラム「市川学Ⅱ」において、市川市役所及び市内の企業・NPO法人をはじめとする各種団体の取り組みを見学すると共に、社会課題の解決に向けて地域活性化に貢献する人材、「地域つながり力」を持った人材を2028年度までにのべ150人以上育成する。	「市川学Ⅱ」は9月3日(火)4日(水)5日(木)に、千葉商科大学・和洋女子大学・東京医科歯科大学・東京経営短期大学・昭和学院短期大学の専任教員、包括協定企業等による講義の授業を持つと同時に、また市内施設見学(フィールドワーク)を行った。講義10コマ、フィールドワーク5コマである。履修者は35名であった。地域つながり力育成の役目は充分果たしている。
3	大学コンソーシアム市川が個別に連携協定を結んだ市川市内の有力・優良企業等と交渉し、上記取組2の「市川学Ⅱ」以外に各企業等の見学や交流事業をそれぞれ2件以上実施する。これにより、各企業と共に地域活性化に貢献する。	2024年度については、「市川学Ⅱ」以外に、京成電鉄株式会社は2件(グループ会社施設見学ツアー、宗吾車両基地キッズフェスタ)、東京ベイ信用金庫は1件(金融に関する対面講座)、株式会社市進ホールディングスは3件(出張講義の実施、大黒屋の利用)、千葉県税理士会市川支部は1件(税務教育をテーマとした対面講座)の事業を実施した。
評価	5	④ 3 2 1

取組目標②	ゆとりのある子育て環境の実現と人材の育成			
活動指標	子育て環境を知る学習を複数大学間で展開させていくと共に、2028年度までにのべ250人以上の学生に市川市を中心とする地域での就職機会を提供し、地元就職率の向上を図る。			
	具体的取り組み内容	2024年度実績		
1	共同開発プログラム「市川学Ⅱ」において、市川市からの委託で運営している子育て支援センターである昭和学院短期大学の「もこもこ・こどもセンター」を利用すると共に、「市川学Ⅱ」を通じて子育て環境の充実という社会課題の解決に向けて貢献する意識を持った人材を2028年度までにのべ100人以上育成する。	子育て支援センターの利用開放を行った他、共同開発科目「市川学Ⅱ」において、9月5日(木)に子育て支援センターの取り組みに関する講義及び見学(フィールドワーク)を行った。受講者数は35名であった。		
2	市川市と共同主催として実施している「幼保就職ナビinいちかわ」を通じて毎年50名を超える学生が市川周辺の保育現場の実態を学ぶと共に、就職へ向けた機会としていく。	大学コンソーシアム市川キャリア支援部会と市川市共催により、市内の私立幼稚園及び私立保育施設を対象とした合同就職説明会「幼保就職ナビin いちかわ」を令和6年7月13日(土)13:30~16:00に昭和学院短期大学で開催した。参加団体 市川市内の幼稚園、法人保育園(30団体)。参加者は市川市の幼・児・児童関連施設に興味がある大学生1~4年生計81名。開催にあたっては市川商工会議所の協力を仰いだ。		
3	こども教育に関連する社会人のためのリカレント教育・学び直しのための講座を企画し、2025年度までを目標として、実際に立ち上げていく。	大学の教員による保育者を対象とした専門的成長のためのプログラム「幼稚園教諭・保育士のための「学びなおし講座(全3回)」を実施した。幼児教育・保育の現場で課題となっているテーマについて、その分野を専門とする教員が、保育者の専門性の向上やキャリア形成をめざして、保育者のための、学びなおしの機会を、全3回にわたってオンラインで提供した。第1回8月28日第2回 9月30日第3回10月23日。参加者42名		
評価		⑤	4	3 2 1

取組目標③	少子高齢化社会に対応できる地域医療・福祉			
活動指標	医療・看護・福祉関連科目を含める形で2028年度まで毎年80科目以上を開放する単位互換制度を堅持し、市川市の現代社会的課題を扱う共同開発プログラム「市川学Ⅱ」を通じて、市川で進行する少子高齢化社会に対応できる人材を2028年度までにのべ150人以上育成する。			
	具体的取り組み内容	2024年度実績		
1	医療・看護・福祉関連科目を含む形で他の①~④の取組目標に関連する単位互換科目とあわせて、2028年度まで総計80科目以上を単位互換科目とする体制を堅持することを目標とする。	2024年度は5大学全体で98科目を単位互換科目として開放した。充分達成できている。		
2	共同開発プログラム「市川学Ⅱ」において、市内の企業・NPO法人等の運営する介護施設等を見学すると共に、少子高齢化が進行する市川市の現状を踏まえた地域医療・看護・福祉に貢献する人材、「地域つながり力」を持った人材を2028年度までにのべ150人以上育成する。	「市川学Ⅱ」は9月3日(火)4日(水)5日(木)に、千葉商科大学・和洋女子大学・東京医科歯科大学・東京経営短期大学・昭和学院短期大学の専任教員、包括協定企業等による講義の授業を持つと同時に、また市内施設見学(フィールドワーク)を行った。講義10コマ、フィールドワーク5コマである。履修者は35名であった。地域つながり力育成の役目は充分果たしている。		
評価		⑤	4	3 2 1

取組目標④	現代社会のニーズにあった都市型ビジネスの展開			
活動指標	スポーツビジネスやブライダルビジネス、コミュニティビジネスなど都市型ビジネス関連科目を含める形で毎年80科目以上の単位互換制度や、市川市の現代社会的課題を扱う共同開発プログラム「市川学Ⅱ」を通じて、都市型ビジネスに対応できる人材2028年度までにのべ150人以上を育成するとともに、金融や租税に関する教育機会を確保していく。			
	具体的取り組み内容	2024年度実績		
1	都市型ビジネス関連科目を含む形で他の①~④の取組目標に関連する単位互換科目とあわせて、2028年度まで総計80科目以上を単位互換科目とする体制を堅持することを目標とする。	2024年度は5大学全体で98科目を単位互換科目として開放した。充分達成できている。		
2	共同開発プログラム「市川学Ⅱ」において、市内の企業・施設等を見学すると共に市川市の現状を踏まえたコミュニティビジネスや、都市型ビジネスに貢献する人材、「地域つながり力」を持った人材を2028年度までにのべ150人以上育成する。	「市川学Ⅱ」は9月3日(火)4日(水)5日(木)に、千葉商科大学・和洋女子大学・東京医科歯科大学・東京経営短期大学・昭和学院短期大学の専任教員、包括協定企業等による講義の授業を持つと同時に、また市内施設見学(フィールドワーク)を行った。講義10コマ、フィールドワーク5コマである。履修者は35名であった。地域つながり力育成の役目は充分果たしている。		
3	大学コンソーシアム市川と連携協定を結んだ東京ベイ信用金庫及び千葉県税理士会市川支部と協働しつつ、金融教育・税務教育について学生が学ぶ公開講座を2028年まで毎年それぞれ1回以上提供する。	11/6(水)に千葉県税理士会市川支部と協働で「知らないで損する!? 現役税理士が教える税金の基礎知識」を開催した。また、11/27(水)に東京ベイ信用金庫(財務省 関東財務局 千葉財務事務所 理財課協力)と協働で「人生とお金の知恵」を開催した。		
評価		⑤	4	3 2 1

取組目標⑤	地域社会の国際化に対応できる人材の育成				
活動指標	千葉商科大学 CUC International Squareや和洋女子大学グローバル・ラウンジの利用により異文化交流体験や英語でのコミュニケーション力を高める体験型の学習機会を2028年度までの5年間でのべ5,000人以上の利用者に提供し、地域社会の国際化に対応できる人材を育成する。				
	具体的取り組み内容	2024年度実績			
1	千葉商科大学CUC International Squareと和洋女子大学グローバル・ラウンジなどの施設を通じ、異文化交流体験や英語でのコミュニケーションを気軽に体験できる機会を提供する。同施設の利用者条件を、大学コンソーシアム市川参加5大学に解放することで、のべ5,000人以上の利用者に体験型学習機会を提供し地域社会の国際化に対応できる人材の育成を図っていく。	千葉商科大学のCUC International Squareと和洋女子大学グローバル・ラウンジなどを大学コンソーシアム市川参加5大学に向けて開放し、5大学あわせて5,462名が利用した。 (千葉商科大学以外内訳:2024年4月…7名、6月…6名、7月…23名、12月…2名、計:38名)			
評価	5	④	3	2	1

取組目標⑥	持続可能な社会への転換(SX)に向けた貢献					
活動指標	持続可能な社会への転換に向けて、2028年度までにのべ150人以上の環境意識の高い学生を地域社会に送り出していく。					
	具体的取り組み内容	2024年度実績				
1	環境関連科目を中心に他の①～④の取組目標に関連する単位互換科目とあわせて、2028年度まで5大学で総計80科目以上を単位互換科目として相互に開放する体制を堅持することを目標とする。	2024年度は5大学全体で98科目を単位互換科目として開放した。充分達成できている。				
2	共同開発プログラム「市川学Ⅰ」において、市川市の自然環境について学び、環境課題の解決と持続可能な社会への転換(SX)に向けて貢献する「地域つながり力」を持った人材を2028年度までにのべ150人以上育成する。	「市川学Ⅰ」は8月20日(火)21日(水)23日(金)に、千葉商科大学・和洋女子大学・東京医科歯科大学の専任教員による講義を行う同時に、市内博物館等の見学(フィールドワーク)を行った。講義9コマ、フィールドワーク6コマである。履修者は31名であった。地域つながり力育成の役目は充分果たせている。				
評価	5	⑤	4	3	2	1

取組目標⑦	人生100年時代に向けた生涯学習への対応				
活動指標	大学コンソーシアム市川参加5大学の健康、教育、環境、商業など多岐にわたる専門分野を活かし、「いちかわ市民アカデミー講座」をさらに発展させることによって、年間12回以上の市民向け講座を開催して市川市民の生涯学習に対応していく。				
	具体的取り組み内容	2024年度実績			
1	「いちかわ市民アカデミー講座」をさらに発展させることによって、年間12回以上の市民向け講座を開催して市川市民の生涯学習に対応していく。千葉商科大学・和洋女子大学・昭和学院短期大学・東京経営短期大学が会場(運営を含む)となる4コースを維持し、各コースの講座のテーマに応じて、東京医科歯科大学にも講師派遣を依頼する。	各コースを3講座で実施し、計12講座を実施した。(東京医科歯科大学からの講師派遣はなし) <その他の公開講座開催状況>2024年4月～2025年3月 開催数合計:18講座 ・共通(いちかわ市民アカデミー講座)…1講座 ・和洋女子大学、東京医科歯科大学教養部共催…1講座 ・千葉商科大学…2講座 ・和洋女子大学…7講座 ・昭和学院短期大学…2講座 ・東京経営短期大学…5講座			
評価	5	④	3	2	1

取組目標⑧	地域文化の理解と、市川地域の発展に向けた研究協働					
活動指標	市川の地域的特徴を活かし、同地域の発展に資する共同研究プロジェクトを毎年立ち上げる(共同研究を毎年1件以上)。また、地域文化に詳しい学生を2028年度までにのべ150人以上育成し、地域の発展に貢献していく。					
	具体的取り組み内容	2024年度実績				
1	共同開発プログラム「市川学Ⅰ」において、市川市の自然・文化・歴史についての理解を深めると共に、地域文化の活性化に貢献する人材、「地域つながり力」を持った人材を2028年度までにのべ150人以上育成する。	「市川学Ⅰ」は8月20日(火)21日(水)23日(金)に、千葉商科大学・和洋女子大学・東京医科歯科大学の専任教員による講義を行う同時に、市内博物館等の見学(フィールドワーク)を行った。講義9コマ、フィールドワーク6コマである。履修者は31名であった。地域つながり力育成の役目は充分果たせている。				
2	市川の地域的特徴を活かし、同地域の発展に資する共同研究プロジェクト(新規の共同研究を毎年1件以上)を立ち上げ、このプロジェクトを通じて地域について理解を深めると共に、同地域の発展に貢献する。	複数の応募獲得に向けて募集ポスターを作成し各大学での応募促進・啓蒙活動を強化することで2024年度の共同研究助成事業では3件の研究事案の応募があった。 研究活動部会員全員で厳正なる審査を実施し研究代表者董航氏(東京経営短期大学経営総合学科)による、「海外にルーツを持つ高齢者の地域コミュニティへの参加状況と課題 市川市における参加実態と生涯教育へのニーズに関する調査研究を基盤として」が部会内採択に至り、推進委員会に推薦し承認された。				
評価	5	⑤	4	3	2	1

取組目標⑨	都市型災害に強い地域づくりと災害時の相互連携					
活動指標	市川市内の教育機関や医療機関が連携して防災や街づくりに取りくむ。また、災害に強い地域づくりの一環として、取組目標⑥とも連動させつつ、大学コンソーシアム市川に所属する各大学の備品の実態を把握し、共同購入について検討していく。					
	具体的取り組み内容	2024年度実績				
1	大学コンソーシアム市川に所属する各大学の防災備蓄品や環境に配慮した備品の使用実態を把握し、共同購入について検討する(検討のための部会を年1回以上実施)。	2024年度は東京科学大学・昭和学院短期大学・東京経営短期大学の3校で昨年度に引き続き防災用品を購入。和洋女子大学と千葉商科大学はコンソーシアムで協力開催している「防災の日」イベントについて、今後の活動の参考資料として動画撮影・制作を実施した。				
評価		⑤	4	3	2	1

取組目標⑩	男女共同参画社会に向けたキャリアパス構築支援					
活動指標	プラットフォーム参画大学の学生にキャリアパス構築の支援事業を進め、毎年80名以上の参加学生を募集する。					
	具体的取り組み内容	2024年度実績				
1	市川市役所と市川商工会議所、関係各機関と連携しつつ、プラットフォーム参画大学の学生を対象にしたキャリア講演会・討論会を年1回以上開催する。	市川市への人材定着の促進や地元志向の学生のニーズを踏まえ、本社もしくは事業所を市川市に構える企業を誘致し、学生の就職先の選択肢の視野拡大を目指し合同説明会形式の合同セミナーを本年度初めて開催した。2024年11月27日(水)13:30~15:10に千葉商科大学にて実施した。参加者数52名。参加企業数は市内の優良企業10社。開催にあたっては市川市および市川商工会議所の協力を仰いだ。参加学生および企業からの評価が高く大変意義のある取り組みであった。				
評価		⑤	4	3	2	1

取組目標⑪	地域つながり力の素質をもった優秀な学生の確保					
活動指標	地域と教育機関が連携し、より良い教育のあり方を検討するとともに、プラットフォーム形成大学・短期大学が連携した学生募集活動を実施する。さらに、地域の初等教育に対する教育活動支援を毎年開催し、2028年度までにのべ2,000人以上の児童に教育活動支援の機会を提供する。					
	具体的取り組み内容	2024年度実績				
1	プラットフォーム形成大学・短期大学共同のニーズ調査を実施する。具体的には各大学の3月期~6月期に開催されるオープンキャンパス来場保護者に対してアンケート調査を実施する。	回収枚数 総数159件 実施日 千葉商科大学 19件(8月18日) 昭和学院短期大学 38件(8月24・27・28・29・30日・9月7・21日) 環太平洋大学・東京経営短期大学 78件(7月20・21・8月10・18日) 和洋女子大学 24件(8月4・11・25日) 大学認知度 総数159件に対し、千葉商科大65.465.4%、昭和学院短大39.039.0%、環太平洋大35.835.8%、和洋女子大59.759.7%				
2	プラットフォーム形成大学・短期大学共同の高校訪問を実施する。市川市内にある高等学校4校以上を目標に共同の高校訪問を実施する。各大学のプロモーションだけでなくとまらず、大学コンソーシアム市川設立の目的や活動内容等についても説明を行う。	実施日 9月26日(木)13:30~14:15 訪問高校 和洋国府台女子高等学校 中川進路指導部長 課題 各大学担当者から大学の教育、入試等に関する説明を行った。課題としては、実施時期に併せ説明内容を考え、高校側にとっても有益な情報提供を行うようにしたい。そのため、実施日のスケジュール調整をより早期に行い、大学側の説明内容について準備期間を多く設けて進めるとしたい。				
3	大学コンソーシアム市川のパンフレットを作成し、それを用いて学生募集活動を通年で実施する。高校訪問時やオープンキャンパスで配布し、認知度向上をはかる。	実施日 9月20日(金)10:00~12:00 日本語学校生徒 参加者12名 (和洋女子大3名、環太平洋大3名、千葉商科大4名、昭和学院短大2名)				
4	「キッズビジネススタウン®いちかわ(地域の小学生児童や幼児に向けたビジネス教育の一環として、2003年からスタートした市川市教育委員会の後援のイベント)」を毎年開催し、これにプラットフォーム形成大学・短大の教職員・学生がスタッフとして参加し、2028年度までにのべ2,000人以上の児童に対して教育活動支援を行う。	2024年8月31日(土)・9月1日(日)に「第22回キッズビジネススタウン®いちかわ」を実施し、両日で508名の児童が参加した(同伴者の数は除く)。なお、イベントの運営に、大学コンソーシアム市川参画校の学生98名(千葉商科大学93名、和洋女子大学3名、昭和学院短期大学2名)、教職員6名(千葉商科大学5名、昭和学院大学1名)が携わった。また、8月31日(土)には、市川警察署から2名が参加し、学生とともに警察ブースを担当した。				
5	市川市内の小中学校及び連携協定を結んだ株式会社市進ホールディングス傘下の学習塾の通塾生などを対象に、大学の学びを紹介する出張講義・オンライン講座等を開催し、大学での学びの一端を体験してもらうことで、初等・中等教育の段階にある児童・生徒のキャリアパス構築に資すると共に、将来、地域に資する人材の育成・確保を図る。この事業を通じて、2028年までに300人以上の児童・生徒に大学の学びを体験してもらう。	株式会社市進ホールディングスの民間学童保育施設「アフタースクールナナカラ」からの依頼を受け、8月19日に講座を実施した。参加者は12名であった。				
評価		5	④	3	2	1

アウトカム目標に係る数値

◇プラットフォーム参加大学等の卒業時の平均学生満足度3.5以上(5段階評価)【4.4】

※4段階評価でアンケートを行っている大学については、5段階評価に換算している。

◇プラットフォーム参加大学等の平均の県内就職率20%以上【45%】